

令和3年度

久米島町教育委員会の事務に関する
点検・評価報告書

令和4年9月

久米島町教育委員会

まえがき

久米島町教育委員会では、子ども達が「島に誇り」・「心に夢」を持ち、「創造性・国際性に富む人材の育成と生涯学習の振興」を目指すことができるよう教育振興に努めております。

この報告書は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規程に基づき、久米島町教育委員会の活動状況及び教育施策の実施状況についての点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表するものです。

なお、点検・評価に当たっては、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する3名の方を外部評価委員に委嘱し、助言及び評価を求めることとしました。

外部評価委員名簿

* 令和4年8月22日現在

役 職	氏 名
現久米島PTA連合会	吉原 昌司
現久米島西中学校評議員	國吉 佳代
元久米島町役場職員	佐久田 等

I はじめに

1 点検・評価の導入の目的

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な教育行政事務を執行するものです。このため、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要性があります。

このようなことから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正において、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが定められています。

町教育委員会は、この報告書を議会に提出するとともに、ホームページ等で公表し、町民への説明・責任を果たし、町民に信頼される教育行政を推進してまいります。

2 対象事業と点検・評価の方法

(1) 久米島町教育委員会が策定した「令和3年度久米島町教育委員会事務事業」において、主要な事業の取り組み並びに達成状況について点検・評価を行いました。

(2) 評価方法

教育施策の各項目について、達成度により内部（自己）評価しました。

・達成度（ A ～ D ）

A ……十分達成できた

B ……概ね達成できた

C ……やや不十分である

D ……不十分である

— ……新型コロナウイルス感染症の影響による未実施

※「成果と課題及び対応」行頭の記号は○＝成果、●＝課題、☆＝課題への対応、△＝新型コロナウイルスの影響による中止。

(3) 外部評価

点検・評価にあたり、点検評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する3名の方を外部評価委員に委嘱し、ご意見・ご助言をいただきました。

(4) 評価基準日

令和4年3月31日

(5) 評価実施日

令和4年8月22日

令和3年度 久米島町教育主要施策

久米島町教育委員会

教育主要施策の策定にあたっては、国や県の教育改革の動向、県の重点施策の基本方針等を踏まえ、「久米島町教育主要施策（令和2年度～令和6年度）」を定めました。

教育の目標

- ◆ 自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指すとともに、豊かな表現力とねばり強さをもつ幼児児童生徒を育成する。
- ◆ 平和で安らぎと活力のある社会の形成者として、郷土文化の継承・発展に寄与し、国際社会・情報化社会等で活躍する心身ともに健全な町民を育成する。
- ◆ 学校・家庭・地域社会の相互の連携及び協力のもとに、時代の変化に対応し得る教育の方法を追究し、生涯学習社会の実現を図る。

目標達成のための主要施策

1. 生涯学習の推進

生涯学習の推進にあたっては、町民一人一人が学習の各時期において生きがいのある人生を過ごすことができるよう、学習形態と施設の整備拡充や利用の促進を図り、諸施策を展開する。最近の調査によると国民の3分の2以上が「生涯学習」に関心を示しており、人々がいつでも自由に学習機会を選択し、学習活動を楽しもう・生きがいを見いだそうという学習意欲が高まりつつあるので、的確にニーズを把握し環境を整備するとともに拡充を図ります。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
1	各種学級、講座等の充実	三線教室、手話教室、水泳教室、久米島紬体験（母の日・父の日プレゼント）等の各種教室を実施する。	○三線教室・手話教室は新型コロナウイルス感染対策を行い例年よりも定員を減らして実施した。 △水泳教室や久米島紬体験などは新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。 ●新型コロナウイルス感染症等の状況も含め、開催方法について検討する。	C	B
2	県立移動図書館	図書館のない地域を対象に、県立図書館が図書の展示・貸出を行う移動図書館を開催している。	○11月に開催し、162人の町民が利用（貸出冊数1,103冊）した。ほんのもり内での開催となり、施設の周知や利用促進につながった。 ○久米島町での移動図書館の開催は令和3年度で終了となるが、ほんのもりが開館したことにより、県立図書館と連携した読書支援を行う体制が整った。 △新型コロナウイルス感染拡大防止のため、読み聞かせ等のイベントは開催できなかったため、開催方法について検討する必要がある。	A	A
3	電子図書館	内閣府と連携し、図書館や本屋がないなど情報格差が大きく、読書機会が少ない沖縄県の離島地域の課題解決につなげるため、電子図書館を使った実証実験（3カ年）を実施する。	○図書館利用者カード等の登録者数が281人増の1,323人、貸出冊数が692冊で過去最も多くなり、電子図書館の利用促進に繋がった。 ●貸出冊数と利用者数の伸び悩みが課題であるため、町民ニーズに合った電子書籍や独自資料（行政・地域資料）の充実に努め、利用促進を図る。	A	B

2. 幼稚園教育・学校教育の充実

学校教育においては、幼児児童生徒一人一人に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力の育成及び豊かな心、健やかな体の育成など「生きる力」を育む学習活動を教育活動全体で充実させることが重要であり、自らの個性を生かし社会の変化に主体的に対応できる能力や創造性の基礎を培う育成を目指します。

このため、学校においては、教育活動全体を通じて、個に応じた指導を充実させるとともに、目的意識を高める指導方法等の改善・充実を図ることで幼児児童生徒に自己肯定感と向上心をはぐくむなど、適切な教育課程の編成・実施に努めます。

また、町教育委員会においては各学校が創意工夫した特色ある教育課程を編成・実施できるよう各学校の実情に応じた適切な支援を実施します。

I. 幼稚園

・幼児教育の充実

幼稚園教育は、園生活全体を通して豊かな心情・積極的な意欲・健全な生活習慣、態度を育て、調和のとれた人格形成の基礎を培うものです。幼児に適切な環境を与え、遊びを中心とした総合的な指導を通して、幼児の健全な発育を促進しながら、保護者及び小学校との連携を積極的に推進します。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
4	幼児教育	保護者の子育て支援として、午後の保育を希望する園児を対象に、仲里・清水幼稚園で預かり保育を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ○両園に預かり指導員を二人配置することができ、希望するすべての園児を受け入れた。 ○免許取得者の確保が継続できている。 ○幼稚園教諭と預かり指導員とが活動内容を相談し、実践できる体制が整い安全面等に配慮することができた。 ●利用時間超過が度々みられる為、利用時間の周知を図る必要がある。 ●今後も指導方法等について共通確認を図り資質向上に努めていく。 	A	A
5		幼稚園にヘルパーを配置し、安全面等への配慮を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ○両園へ、ヘルパー人員の配置ができた。 ○ヘルパー日誌の活用により担任や教育委員会との情報共有が図れている。 ●ヘルパーを希望する幼児が増員した際の、人員の確保が課題。 	A	A

Ⅱ. 小・中学校

・学習指導の工夫・改善・充実

学校においては、児童生徒一人一人の実態等を十分に把握し、個に応じた指導体制や指導方法、評価方法の工夫・改善を図り、「沖縄県学力向上推進5カ年プラン・プロジェクトⅡ」や『「問い」が生まれる授業サポートガイド』を活用して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や指導方法の確立に努めます。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
6	学力調査	1, 全国学力・学習状況調査 * 小6年生 2, 沖縄県学力到達度調査 * 小3～6年	小学校 ○令和3年度全国学力学習状況調査においては 【国語】 67.0 p (全国差+2.3 p) ※全国水準レベル (+5.0 p～-5.0 p内) 【算数】 68.0 p (全国差-2.2 p) ※全国水準レベル (+5.0 p～-5.0 p内) ○沖縄県学力到達度調査においては 【国語】 5年 59.6 p (県差+6.8 p) 6年 69.0 p (県差+7.2 p) 【算数】 5年 65.5 p (県差+6.8 p) 6年 41.4 p (県差+2.9 p) ☆各種調査の結果に、学校間差や学年間差が見られるため、各学校や学年の実態に応じた対応が必要である。 ☆各種調査の結果の課題等を分析し、学習指導計画等に明記して、継続して授業改善に生かすように指導・支援していく。	B	A

7	学力調査	<p>1, 全国学力・学習状況調査 中学3年生</p> <p>2, 沖縄県学力到達度調査 中学1～2年</p>	<p>中学校</p> <p>○令和3年度全国学力学習状況調査においては 【国語】 64.0 p (全国差-0.6 p) ※全国水準レベル (+5.0 p ~ -5.0 p 内)</p> <p>【数学】 52.0 p (全国差-5.2 p) ※全国水準レベル (+5.0 p ~ -5.0 p 内) よりやや低い。</p> <p>○沖縄県学力到達度調査においては 【国語】 1年 61.9 p (県差+9.2 p) 2年 59.5 p (県差+4.2P) 【数学】 1年 47.8 p (県差+4.5 p) 2年 33.8 p (県差-6.1P) 【英語】 1年 48.3 p (県差+7.0 p) 2年 48.1 p (県差-6.2 p)</p> <p>☆各種調査結果に、学校間差、学年間、教科間の差が見られるため、各学校や学年の実態に応じた対応が必要である。</p> <p>☆各種調査結果から課題等を分析し、学習指導計画等に明記していく。</p> <p>☆教科会(中高)等を利用しながら授業改善・補習指導の方法なども助言していく。</p>	B	B
8	学習支援員の配置	<p>児童生徒一人一人に基礎学力を身につけさせることを目的に、小中学校に学習支援員を配置する。</p>	<p>○小学校に3名、中学校に4名の学習支援員を配置できたことで、学習未定着の児童生徒に対し、きめ細やかな学習支援を行うことができ、学習に対する意欲を高めることができた。</p>	B	A

9		<p>漢字検定 受検機会年3回のうち1回の受検料補助 *小学校2年生以上(中学校においては特別支援学級在籍生徒)が対象</p> <p>5級:2,000円 4級:2,500円 3級:2,500円 準2級:2,500円</p>	<p>○漢字検定受検者総数 357名 合格者 250名 (合格率 70%) ※在籍学年以上の級の受検者数 271名 合格者 201名 (合格率 74.2%)</p> <p>5級 合格者 43名 (合格率 59.7%) 4級 合格者 8名 (合格率 80%) 3級 合格者 1名 (合格率 100%) 準2級 合格者 1名 (合格率 100%)</p> <p>●漢字学習のまとめとして受検しているため、当該学年レベルの漢字力は定着させたい。</p> <p>☆授業やがんばりノート、漢字プリントなどを活用して漢字学習と検定対策に取り組む。</p>	A	A
10	検定支援	<p>英語検定 (受検機会年3回。1人につき同級2回、3級以上は3回の受検料補助) *中学生全員対象</p> <p>5級:2,500円 4級:2,900円 3級:4,700円 準2級:5,700円 2級:6,500円</p>	<p>○英語検定受検者総数 149名 合格者 73名 (合格率 49%) ※在学年以上の級の受検者数 134名 合格者 62名 (合格率 46%)</p> <p>○3級以上の合格率が伸びた。</p> <p>3級 合格者 19名 (合格率 59%) 準2級 合格者 10名 (合格率 40%) 2級 合格者 2名 (合格率 33%)</p> <p>●中学生全員を補助対象としているが、受検者数は伸び悩んでいる。</p> <p>●中学卒業までに3級レベルの英語力を定着させたい。</p> <p>☆授業や過去問プリントなどで検定対策に取り組む。</p>	A	A

11	地域教育 資源活用 支援	地域の人材や地域環境等を活用した教育活動への支援	<p>○地域教育人材活用支援事業により、各小中学校1校あたり15回（全校合計120回）の計画ができた。</p> <p>○今年度に関しては新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、全体で153回が活用されている。足りない33回分に関しては12月補正で増額し、地域人材活用の充実を図った。</p> <p>☆各学校によって、活用の回数に差が見られることから、各学校の活用状況や内容を他校へ伝え、積極的に活用できるようにさらに周知していく。</p>	A	A
12	久米島町 学力向上 教職員研修会	<p>1. 教職員一人一人が研究授業及び授業研究会を通して相互的な研修を行い、それぞれの教師としての資質、授業力の向上に努める機会とする。</p> <p>2. 中学校区の幼小中連携研修会を開催することで「確かな学力」の確立へ向けての実践の共有化を図る。</p>	<p>○令和3年度町教職員研修会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンライン研修で実施した。参加者は町内教職員94名参加した。内容に関しては「①児童生徒一人一人の理解」「②発達障害の総論」「③気になる児童生徒の関わり（合理的配慮）」「④自己肯定感の高まりを意識した授業」について。</p> <p>○各学校においては、新型コロナウイルス感染拡大防止を徹底し、工夫しながら研究授業等を実施した。</p> <p>○町学力向上推進委員会では、各学校の学力向上の取り組みの報告会をオンラインで実施し、共有化を図ることができた。</p> <p>●各中学校ブロック学力向上推進共通実践事項の取り組みの充実に課題が見られた。</p> <p>☆次年度以降においても授業改善を基軸とした学力向上研修会を実施し、島内教職員が集まる研修会の充実を図っていくため、さらなる助言・支援を行っていく。</p>	B	B

・道徳・人権教育の充実

児童生徒一人一人に豊かな心を育み、自他の生命を尊重する心を基盤に、美しいものに感動するなどの豊かな情操、善悪の判断などの規範意識及び公共の精神、健康・安全、規則正しい生活などの基本的な生活習慣を育むとともに、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を培う。

このため、学校においては、児童生徒の発達の段階に応じて、道徳的な心情や判断力、実践意欲と態度などの道徳性を培う道徳教育を、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて計画的・発展的に指導を推進します。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
13	道徳・人権教育	1. 道徳の時間の指導の充実 ＊指導案を作成しての研究授業の実施 2. 全教育活動を通じて、道徳性や人権意識を身に付けさせる。	○各学校の全学級において年間1回以上の公開授業をするように周知して実施した。 ○新型コロナウイルス感染症に関連した「偏見・差別・いじめ」に関する資料を配付し「特別な教科道徳」で実践した。 ☆町内各学校で行っている道徳の授業等を他校へと紹介し、更なる充実を図る。 ☆新型コロナウイルス関連における「偏見・差別・いじめ」等に関する資料を積極的に発信する。	B	B

・健やかな心と体を育む教育の充実

体育・スポーツ活動に関する指導については、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、豊かなスポーツライフの基礎を培う観点に立ち、学習指導の工夫・改善を図る。併せて、運動部活動の活性化や適正化を促進し、発達段階に応じた基礎的な体力の向上に努めます。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
14	体力向上・健康保持増進	全国体力・運動能力運動習慣等調査の実施	<p>○全国体力・運動能力等調査結果<令和3年度調査結果></p> <p>【小学校】 全国平均を上回っている種目 握力 (+3.0) 上体起こし (+1.5) 反復横跳び (+1.4) シャトルラン (+2.4) 50m走(+1.4) 立ち幅跳び (+1.8) ボール投げ (+5.0) 全国平均を下回っている種目 長座体前屈(-0.4)</p> <p>【中学校】 全国平均を上回っている種目 握力 (+0.8) 反復横跳び (+1.6) 50m走 (+1.6) 立ち幅跳び (+1.6) ボール投げ (+2.6) 全国平均を下回っている種目 上体起こし (-1.7) 長座体前屈 (-1.5) シャトルラン (-2.7)</p> <p>○全国体力・運動能力等調査結果<過去9年間の課題種目></p> <p>【小学校】 反復横跳び (-2.0) 長座体前屈 (-1.2) 上体起こし (-0.4) 【中学校】 シャトルラン (-2.7) 上体起こし (-1.7) 長座体前屈 (-1.5)</p> <p>☆各学校において、日常的に体力向上や運動能力の向上のために「一校一運動の推進」の更なる充実を図る。 ☆町内学校において、体力向上に積極的に取り組んでいる学校の実践事例を積極的に発信する。 ☆県内の体育専科を活用した体育の授業づくりへの指導・支援を行う。</p>	B	B

15		<p>幼児児童生徒健康診断 *健康診断の結果を、健康管理システムを活用し、健康管理に努める。</p>	<p>○う歯（むし歯）なしに関しては、中学校が男女とも70%以上と全国平均よりも10%程上回っている。小学校は男女とも全国平均ほどである。 ○小中学校の各々の意識結果として、フッ化物洗口開始後、右肩上がりで、う歯（むし歯）なしが増えている。 ●小学校女子の視力1.0未満が、県・全国平均より低い傾向にある。 ●中学校平均体重等の差異はあまりないが、中等度肥満が前年度より増加している。</p>	A	A
----	--	--	--	---	---

・生徒指導の充実

生徒指導は、一人一人の児童生徒の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度の育成と、個々の児童生徒の自己指導能力の育成を目指し、教師と児童生徒の信頼関係及び児童生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに、児童生徒が主体的に判断、行動し積極的に自己を活かしていくことができるような生徒指導の充実を図ります。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
16	スクールカウンセラー等の配置	町や県から配置されたスクールカウンセラーを派遣し、不登校や問題等がある児童生徒への相談支援を行っている。	<p>○県スクールカウンセラーの配置により、児童生徒や教職員、保護者等のカウンセリングを行った。また、学校へフィードバックしてもらうことで、児童生徒理解と支援の方法に生かすことができた。 ○今年度は県スクールカウンセラーの配置が各学校、年間3時間の11回分あったため、児童生徒の理解や支援に生かすことができた。 ○町スクールカウンセラーを、1日4時間を目安として月12日、各小中学校の要請に応じ配置することができた。 ●県スクールカウンセラー配置は、久米島町内全学校同じ配置時間数になっているため、児童生徒数が多い学校については、配置時間の設定を工夫する必要がある。 ☆次年度は、町内すべての学校に年10回の配置が決定し、継続的な相談等の支援が可能となる。県スクールカウンセラーと連携を図りながら効果的な活用ができるように支援していく。</p>	A	A

17	児童・生徒の問題行動の把握、関係機関と連携	児童生徒の問題行動を把握した場合に関係する機関（福祉課、警察、県の児童相談所等）と連携し、適切な対応を取る。	<p>○児童生徒や保護者等の対応のため、必要に応じて関係機関と情報共有や対応方法などを連携することができた。</p> <p>○各学校の児童生徒問題行動等調査を毎月実施し、実態把握して必要に応じて学校へ訪問する等、状況の確認や対応策等についての相談やケース会議を実施した。</p> <p>●児童生徒の問題行動等へ対応していくために専門家や専門機関との連携が必要であるが、町内において迅速に対応できていない状況がある。</p> <p>☆児童生徒の健やかな成長の支援のために、効果的・効率的な仕組みづくりや組織づくりに取り組んで行く。</p>	B	B
----	-----------------------	--	--	---	---

・キャリア教育の充実

学校教育においては、児童生徒に夢や希望を育み、時代の変化に力強くかつ柔軟に対応し、主体的に生きることができる自立した社会人・職業人の育成を図る必要がある。このため、教育活動全体を通して児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育を推進し、望ましい勤労観・職業観の育成に努めます。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
18	ジョブシャドウイング学習・職場体験学習	各小中学校の児童・生徒が職場を訪問し、仕事の観察や体験をする。	<p>○コロナ禍の中であったが、小学生のジョブシャドウイング学習と中学生の職場体験学習が46事業者の協力のおかげで実施することができた。</p> <p>○久米島町グッジョブ連携協議会等において、児童生徒の職場見学や職場体験を支援していただき、充実した活動ができた。</p> <p>☆ジョブシャドウイング学習や職場体験を体験だけに終わらせることなく、事前事後の取組が充実するように助言・支援する。</p> <p>☆「自分で考え、計画して、行動に移すことができる児童生徒」を目指したキャリア教育の実践を支援する。</p>	A	A

・特別活動の充実

児童生徒が充実した学校生活を送り、学級や学校での集団活動を通してより良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育むとともに個性の伸長に努めます。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
19	島外派遣費補助	課外活動として島外で開催される中体連・中文連の各種大会・コンクール等へ参加する生徒に対し、派遣にかかる渡航費と宿泊費の一部を補助	<p>○年間 64 の各種大会等に延べ 505 名に対し、大会派遣支援の補助金を交付した。</p> <p>○年間の一人当たりの派遣回数「複数回（2回以上）」の割合が 71% で、各種大会等へ参加する機会を確保できた。</p> <p>●新型コロナウイルス感染症により、開催中止となった大会や日程延期により参加できない大会もあった。</p> <p>☆今後も継続して大会派遣を支援するための予算確保が求められる。</p>	A	A

・特別支援教育の充実

児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め生活や学習上の困難を改善又は克服するための適切な指導や必要な支援を行うものです。学校においては、校内委員会の設置や特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制を構築し児童生徒の状態、特性や学級の実態に即した教育課程を編成するなど特別支援学級の教育課程の充実を図る組織的な取り組みを推進します。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
20	教育支援委員会の設置	特別な教育的支援を必要とする幼児・児童及び生徒のより良い就学支援を行うための調査・審議を行う。	<p>○教育支援委員会を3回開催し、医師や臨床心理士等の知見を基に小学校18名、中学校4名、幼稚園9名の審議を行い、本人、保護者の意見を尊重した就学先を決定することができた。</p> <p>●特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒は増加傾向にあり、早い発達段階での支援が効果的であるため保育所・幼稚園・小学校・中学校それぞれの連携がとれるよう今後も取り組んでいく。</p>	B	A
21	特別支援教育支援員の配置	特別な教育的支援を必要とする児童・生徒の教育活動等を支援するために、要請に応じて小学校、中学校に特別支援教育支援員を配置している。	<p>○小学校12名、中学校3名の支援員を配置することで学習面、生活面での特別な教育的支援を必要とする児童生徒を支援できた。</p> <p>●個別の対応が求められるため支援員の資質向上につながるよう研修を継続的に取り組んでいく。</p>	B	B

・食育の推進

学校教育活動全体を通じた食育の推進に努め、家庭や地域関係機関と連携し、児童生徒に様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得させ、健全な食生活を実践することができる能力を育成していく。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
22	食育の推進	児童・生徒の健やかな成長を育むため、安全、安心な給食を提供している。	<p>○小学生 450 名・中学生 209 名・教職員 141 名に、学校行事の変更や臨時休校等に対応し、年間を通して安定的に学校給食を提供できた。</p> <p>○学校栄養職員が臨任配置のため、一学期間は食育授業等を実施せず、10 月以降、感染状況を見極めながら、学級活動や家庭科、給食時間を利用し「食に関する指導」（食育授業等）を実施（例年の 1/3 程度）した。例年行っている給食試食会（保護者、学校関係者）及び災害時想定給食は感染拡大防止のため、全面中止とした。</p> <p>○地元産野菜（海洋深層水栽培野菜含む）、海産物（モズク、アサ）、島内製造品（そば、とうふ、味噌）紅イモを使った地元産デザートなど地場産物を活用した給食の提供ができた。JA 沖縄久米島支店壮青年部、4H クラブ、かんしょ産地協議会より無償提供して頂いた野菜、紅芋を献立に活用出来た。</p> <p>●老朽化している施設の移転計画の実施策定（PPP/PFI 事業化）。</p> <p>☆PPP/PFI 事業化へ向け、令和 3 年 11 月 5 日、沖縄 PPP/PFI プラットフォーム第 7 回セミナーにて、「離島・過疎地域における持続可能な学校給食システムの構築」として、サウンディングを行い、12 月に 4 社と個別サウンディング行った。施設整備を町負担、維持管理運営面での参画意向が示されたので、引き続き、町の基本方針を取りまとめる。</p>	B	B

・国際理解・外国語教育の推進

国際化の急速な発展に伴い、異なる文化を持った人々と共に協調して生きていく資質や能力を育成することが求められています。学校においては小学校段階からの国際理解教育の充実を図り、コミュニケーションの手段としての英語に慣れ親しませ、小・中学校の学びの連続性を踏まえた英語によるコミュニケーション能力の育成を一層充実させ、これからの社会で羽ばたけるよう育成を図ります。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
23	ALT の配置	1名のALT（外国人英語指導助手）が、町内の全小中学校で、学級担任・教科担任の助手として、英語学習の指導を行う。	○令和3年度の8月まで、ALTを派遣し、積極的に英語の授業等に関わった。 ●今年度は海外ホームステイの派遣が中止になり、面接実施や派遣前の英会話研修等ができなかった。 ○国際理解教育のための英語学習の充実を図るため、「①JTE 中学校配置」「②英語主任会（研修会）の充実」「③小中授業参観の実施」「④ICTを積極的に活用した授業実践（外国語・外国語活動）」「⑤小中（高）連携の充実」「⑥地域人材活用支援事業（地元の外国人の活用）」「⑦小学校における英語キャンプイン久米島の実施（社会教育班事業）」を検討した。 ☆令和4年度は上記事項（①～⑦）を実施する。	B	B
24	町英語指導員の配置	小学校の英語学習の助手として、2名のJTE（日本人英語指導助手）が、6小学校の3年生以上の学年で英語指導を行う。	○JTE（日本人英語指導員）が小学校に2名配置されているため、小学校3年4年生では担任とTTでの授業、小学校5年6年では英語専科とTTで授業を行った。授業だけでなく、教材・教具づくりや年間計画の作成補助も担任と連携して行った。 ○JTEと担任との教材研究の時間を確保したことで英語の授業実践が充実した。 ○小中連携した授業づくりが活発に行われた。小学校外国語の授業に中学校英語教諭の参加により、中1ギャップの解消にも繋げることができた。 ●小学校・中学校が連携し、外国語・外国語活動の学習内容のつながりをさらに意識する必要がある。 ☆小中の英語教育の充実のために、小中の連携を密にして、授業を気軽に見合わせる仕組み作りをしていく。	A	A

・情報教育の充実

高度情報通信ネットワーク社会においては、児童生徒がコンピュータやインターネットを活用し主体的に対応できる「情報活用能力」の育成と情報モラルに関する指導の充実が求められています。

このため、学校においては ICT の活用や情報モラル指導のための校内研修を充実し、児童生徒に情報を適切に活用する基礎的な能力等を系統的に育成するため、情報教育の一層の改善・充実を図ります。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
25	小・中学校の情報教育	情報活用能力を育成するための小中学校の情報機器の整備。	<p>○「公立学校情報機器整備費補助金」及び「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を活用し、全児童・生徒「1人1台端末」及び教師用の端末を755台配備した。</p> <p>○供用開始直後に通信機器の性能に不足があり、通信の遅延や停止が度々発生したが、インターネットの出口を学校毎に用意することで、ネットワークの不具合が改善された。</p> <p>●情報機器の供給が当初予定より大幅に遅れたため、端末の納入が令和3年12月となり活用が不十分だった。</p> <p>●端末供用開始前に教師向けの研修会や動画の配信を行ったが、不十分であった。</p> <p>☆教師用の研修機会を増やすとともに、学習活用で円滑に利用できるようサポート体制を強化する。</p> <p>☆GIGA スクールの運用面の支援強化をするため、運営支援センターの活用やICT支援員の活用を図る。</p>	C	C

3. 国際社会・情報化社会等への対応

国際化・情報化の時代に対応する先見性と国際性に富んだ人材の育成を図るため、広い視野を持ち、異文化を理解するとともに、外国語能力の基礎や表現力等のコミュニケーション能力の育成を図る教育を推進します。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
26	海外ホームステイ派遣事業	国際化・高度情報化時代に対応できることを目的に、町内の英検3級以上の中学生から募集し、選考された3名をアメリカにホームステイさせる。	△新型コロナウイルス感染症拡大のため海外派遣が中止となった。 ○代替え事業として、島内の外国人家庭へ中学生を派遣し島内ホームステイを実施。（球美中2名 久米島西中3名） ●今後の感染症等の状況も含め、代替え事業として国内（島内）ホームステイ等について検討する必要がある。	B	A

4. 青少年の健全育成

豊かな心と健全でたくましい青少年を育成する為、学校、家庭、地域社会がその教育機能を発揮し、生活体験・自然体験の機会を多く持つ中で、ボランティア活動の活性化に努めます。また、地域社会が「地域の子どもは、地域で育てる」意識を高め、子どもの教育に多くの大人が関わり、地域の教育力の活性化・高揚を図る諸施策を推進し、地域青少年の個性伸長や協調性涵養のために、青少年の社会参加や体験活動の拡充を図り、文化活動への参加の気運を高めるために地域の芸能・文化活動等の促進を図ってまいります。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
27	児童・生徒交流	<小学校・なかさと交流> 6月に新潟県十日町市の児童12名を受入、町内の児童12名を新潟県十日町市に派遣し相互交流を図る。	△新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となった。 ○十日町市から特産品や雪の贈呈があり、オンライン交流会を実施した。久米島町から令和2年度交流生12名の内6名が参加し、再会を喜んでいた。 ☆交流のあり方について検討する。	B	A
28		<中学校・佐賀市交流> 12月に佐賀市へ中学1年生16名を派遣、8月に佐賀市からの中学生を受け入れ交流を図る。	△新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となった。 ●オンライン等を活用した交流について検討する。	—	—

29	ヤングフェスティバル	子ども達が各教室等で学習してきた成果を披露する発表会。 *唄・三線、舞踊、ピアノ、空手伝統芸能等	△新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となった。 ●多くの若者が参加したくなるフェスティバルになるよう、中・高校生が主体的に、企画・運営に携われるような仕組みづくりの検討が必要。 ☆町ホームページやLINE等による学生ボランティアの募集、応募者によるフェスティバルの企画・運営、SNSでの情報発信等を検討する。	—	—
30	久米島現代版組踊り	地域の希望・宝である子ども達（小・中・高校生）が、生まれ育った地域の文化・歴史に誇りを持ち、郷土の歴史を題材にしたストーリーを現代版組踊りとして舞台発表を行っている。	○新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、オンライン等を活用し継続的に稽古に取り組むことができた。 ○令和4年3月26日には新型コロナウイルス感染症対策として入場者制限（100名）し、久米島公演を実施した。 ※入場者 昼92名 夜98名 ●自主運営に向けて計画の見直しを行い、稽古や地域行事出演時の関係者の協力支援体制について検討が必要。	B	A

5. 社会教育の充実

町民の社会教育活動を支援し、時代のニーズに即した学習活動に対応するため、施設の整備や社会教育指導者、体育指導員の養成・活動を充実させ、多様な学習機会の提供を図ります。また、家庭教育や地域活動を支援し、各関連機関との連携に努め地域の教育力向上に努めます。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
31	久米島新春書道展	文字文化を通して忍耐強さ、素直に学ぶ心の育成及び町内の書道の普及を目標に実施している。	△新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。 ●感染症等の状況も含め、開催方法について検討する。	—	—
32	久米島町子ども読書まつり	本の楽しさ・読み聞かせの楽しさを保護者に伝え家庭で読書の環境づくりができることを目的として、改善センターにて開催している。	△新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から令和3年度も実施しないこととした。 ☆読書まつり会場への入場方法やイベントの持ち方を見直し、実施可能な方法での開催を検討していきたい。	—	—

33	放課後こども教室	スポーツ・文化・読書・体験活動等により放課後の子ども達の安全・安心な居場所の確保と学習環境作りを目的として開催している。	○新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動休止期間もあったが、概ね予定どおりに活動ができた。 5 小学校：9 教室（学習支援 2、スポーツ 6） ●スポーツ教室に関しては、子ども達の成長過程に応じた活動内容の周知徹底を図るため、専門家による講話（食・体のケア等）の実施を検討する。	C	C
----	----------	--	---	---	---

6. 文化の継承・発展

町民が等しく郷土の文化にふれ、文化財に対する理解を深めるとともに、豊かな文化生活の形成に資するために、文化財の保存・活用及び芸術文化の振興を図ります。このため、町の史跡等の復元整備をはじめ、国・県・町指定文化材の環境整備を推進するとともに、建造物、美術工芸品、史跡、名勝、天然記念物等の調査、また無形文化財、民俗文化財の継承者養成に努めます。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
34	収蔵資料の管理・活用	収蔵資料の適正管理・公開活用を図るため、資料管理のデータ化を行う。	○照明、空調の省エネ化を完了した後、電気使用量・電気料金ともに大幅に低減しつつ、展示室、収蔵庫ともに保存環境の向上が図れている。 ○コロナ過ではあるが、通常運用の実績データが蓄積されてきたことから、季節に応じた設定値のマニュアル化が概ね図れてきている。 ●資料データ化は、顕彰事業、松くい虫対応を優先したため、時間確保できない状況であった。今後、時間確保に努め業務を進める必要がある。	B	B
35	宇江城城跡保存修理・整備事業（災害復旧）	宇江城城跡の修復を図るため、調査を実施し城跡を修復する。	○宇江城城跡の崩落面の養生工事が完了し、崩落石材の撤去を実施した。これにより、斜面に散乱する多くの石材を撤去・整理した。 ●令和 4 年度以降に解体工事を開始する予定となっているため、その工法・方針等、早期に決定する必要がある。	A	A

36	具志川城跡保存 修理・整備事業	具志川城跡の適正な保存・ 活用を図るため、調査を実施し城跡を修復する。	<p>○鉛直ボーリング1本・水平ボーリング2本により下記のことを把握した。崩落面に堆積した赤土は強度がなく、積み直しは極めて困難であること。その両側のオーバーハングした石灰岩もやや弱く、積み直し時にはここも補強する必要があることを把握した。</p> <p>○上記の結果を整備委員会において報告した結果、現代工法を前提に検討することを確認した。</p> <p>●現代工法を前提に審議することになったが、修復範囲を確定する調査、ボーリング調査による崩落面の横断面を把握するための調査を経る必要があり、依然として修復には時間を要する。</p>	B	B
37	町史編集	地域文化を育み、郷土に対する関心と愛着をより深めるため、歴史と文化を科学的に解明する町史編集を行う。	<p>○資料編1の刊行について、報道各社に取り上げてもらい、久米島の戦争史を広くPRできた。</p> <p>○編集委員会を予定通り2回開催し各部会を随時、事務局会議を月1～2回開催し、「久米島町史別巻 久米島町誕生20年のあゆみ」構成内容を決定し編集作業を進めた。</p> <p>●「久米島町誕生20年のあゆみ」の令和3年度刊行を目指していたが、コロナ過による聞き取り調査の遅れ、松くい虫対応など、他業務を優先した為、刊行を令和4年度に繰り越した。</p>	A	A
38	文化財管理	数多くある指定文化財の適正管理により、学習や観光への活用を図る。	<p>○久米の五枝のマツをはじめとする天然記念物の松に、松くい虫対策として樹幹注入を自主施工にて行った。</p> <p>●タキンダの松並木や巨木銘木で松くい虫対策が行われていない箇所があるため、令和4年度実施予定である。</p>	A	B

7. 教育行政の充実

新しい時代を展望した教育実現のため、社会の変化に柔軟に対応した教育行政を運営する。また、教育委員会がその機能を十分に発揮できるよう、各関係機関との連携を強化し、教育行政の効率的効果的運営に努めます。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
39	校舎施設等修繕 (学校施設の耐震化)	美崎小学校 2 棟、清水小学校 3 棟、仲里小学校 2 棟、久米島小学校 2 棟の旧耐震施設について、耐震診断調査を行い、調査結果に基づき耐震化を推進する。	<p>○仲里小学校、久米島小学校の耐震診断調査判定委員会の実施、美崎小学校耐震工事発注、清水小学校補強計画の策定を行った。</p> <p>●判定委員会の結果、両校ともに基準値に満たない棟があり耐震化の必要があると判定、久米島小学校の 1 棟は基準値以上となったため、未耐震施設は 8 棟となった。美崎小学校、清水小学校についても設計が完了し発注に至ったが、令和 3 年度中の完了には至っていない。</p> <p>☆美崎小学校については発注を行うに至ったが当初計画より相当の遅れが生じた。清水小学校についても令和 4 年度中の発注計画を行っているが早期の対応が必要となる。現状も全国的にワースト 10 位内の耐震化率となっているため早急な対応が必要。特に、仲里小学校、久米島小学校については、設計等を早期に取り組む必要がある。</p>	C	C

8. スポーツの振興

生涯スポーツ、健康体力の基礎となる学校体育の充実、生涯スポーツ社会の実現をめざす為、施設・設備の充実を図り、スポーツの普及振興、健康保持・増進に努めます。また、生涯にわたり健康で心豊かな生活を営むためには、自発的・自主的な運動の日常化や健康生活を実践できる能力の育成が重要であり、地域社会及び関係団体との連携を密にし、支援体制の充実・強化を図ります。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
40	町民運動会	町民の親睦と体力増進を目的に全町民を対象に実施	△新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。 ●新型コロナウイルス感染症等の状況も含め、開催方法について検討する。	—	—
41	学校施設の開放 (運動場・体育館)	町民の生涯スポーツ活動の推進と健康増進を図ることを目的に、夜間に学校施設を開放	○学校体育施設2校(久米島西中・球美中)を解放し、10団体が利用しスポーツを通しての健康増進を図っている。 ●学校施設によって利用団体が少ない。学校施設を活用し町民の健康増進への意識を高める取り組みが必要。	B	A
42	B&G 海洋センター プールの開放	B&G プールを開放して、町民の健康づくり、子どもの水とのふれあい及び学校授業で活用している。	○新型コロナウイルス感染症拡大防止による一般開放は行わず、小学校の水泳授業のみでの利用。 ●感染対策を行い実施できるイベント等の開催を検討し施設利用を増やすような取り組みが必要。	B	B

久米島町教育委員会委員名簿

* 令和4年3月31日現在

職 名	氏 名	任 期
教育長	中村 幸雄	令和3年7月10日 ~ 令和6年7月9日
委員（教育長職務代理者）	儀間 啓子	令和2年7月10日 ~ 令和6年7月9日
委員	山城 晶	令和元年7月10日 ~ 令和5年7月9日
委員	大城 秀文	令和2年7月10日 ~ 令和6年7月9日
委員	比嘉 淳	令和3年7月10日 ~ 令和7年7月9日

教育委員会の活動状況について

(1) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は原則として毎月10日を基本に定例会を開いています。令和3年度は12回(総合教育会議、臨時会を含む)開催しました。

(2) 教育委員会会議以外の活動状況

○ 研修会

沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会（書面開催）・研修会（資料提供）講演会（WEB開催）

沖縄県市町村教育委員会総会・研修会、那覇地区市町村教育委員会協議会総会（書面開催）・研修会（中止）

市町村教育委員会教育委員・教育長研修会（WEB研修）

○ その他活動状況（各種行事等への出席）

月	行 事 名	月	行 事 名
R3.4月	各小学校入学式・各中学校入学式	R4.2月	町学力向上推進委員会実践報告会（WEB開催）
R3.5月	町学力向上推進学校訪問	R4.3月	各小中学校卒業式・久米島高校卒業式
R3.10月	第54回へき地教育研究大会那覇地区（久米島大会）		

《外部評価委員の意見》

【生涯学習の推進】

- 各種学級・講座等の充実について、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった教室等が多かったが、その中でも感染症対策を行い実施している教室もあったので外部評価は「B」とする。
- 移動図書館については、ほんのりで引き続き読書支援に取り組んでほしい。電子図書利用については、登録者数に対して貸出冊数が少ないので登録者に対して貸出冊数が増やせるような工夫をする必要がある。

【幼稚園教育・学校教育の充実】

- 学力調査について、例年小学校はよいが中学校は下がっている。学力調査の課題について町民がわかるように明記説明してほしい。また、調査結果の課題等を分析し課題解決できるように指導・支援を引き続き取り組んでほしい。
- 全国体力・運動能力運動習慣等調査では、毎年下回っている種目（柔軟性）が変わっていない、子ども達のケガ等への影響も考えられるので対策を行ってほしい。また、幼児児童生徒健康診断は継続して子ども達の健康管理に努めてほしい。
- 生徒指導の充実について、スクールカウンセラーの活用で問題解決が図られているので引き続き支援に取り組んでほしい。児童生徒の問題行動の把握については、関係機関の他に地域も含めて協力体制を構築する必要がある。
- 情報教育の充実について、情報機器の整備を行っているので活用できるように、教師・子どもたちに対して支援等に努めてほしい。
- 学習支援員の配置、検定支援、地域教育資源活用支援、島外派遣費補助、特別支援教育の充実等は継続して取り組んでほしい。

【国際社会・情報化社会等への対応】

- 海外ホームステイ派遣事業は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、代替えとして島内ホームステイを実施したことにより、例年より多くの生徒に外国語に関わる体験ができたので外部評価は「A」とする。今後の取り組みについても、国内・島内のホームステイについて継続できるように検討してほしい。

【青少年の健全育成】 【社会教育の充実】

- 新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていない事業については、実施方法や内容等、事業のあり方について検討してほしい。

【文化の継承・発展】

- 文化財管理について、町の文化財に指定されて年数も経過しているので町文化財の現状を把握し削除や追加等も含めて見直しを検討してほしい。

【教育行政の充実】

- 校舎施設等修繕（学校施設の耐震化）について、子どもの安全面に関わってくるので早急な対応を進めてほしい。

【スポーツの振興】

- 町民運動会について、町民の親睦を深めるために競技志向を下げ町民みんなが参加できるようなプログラム構成を検討してほしい。
- 学校施設の開放について、施設を利用することにより健康増進が図られている。学生の利用時間等について各団体で共有して周知してほしい。